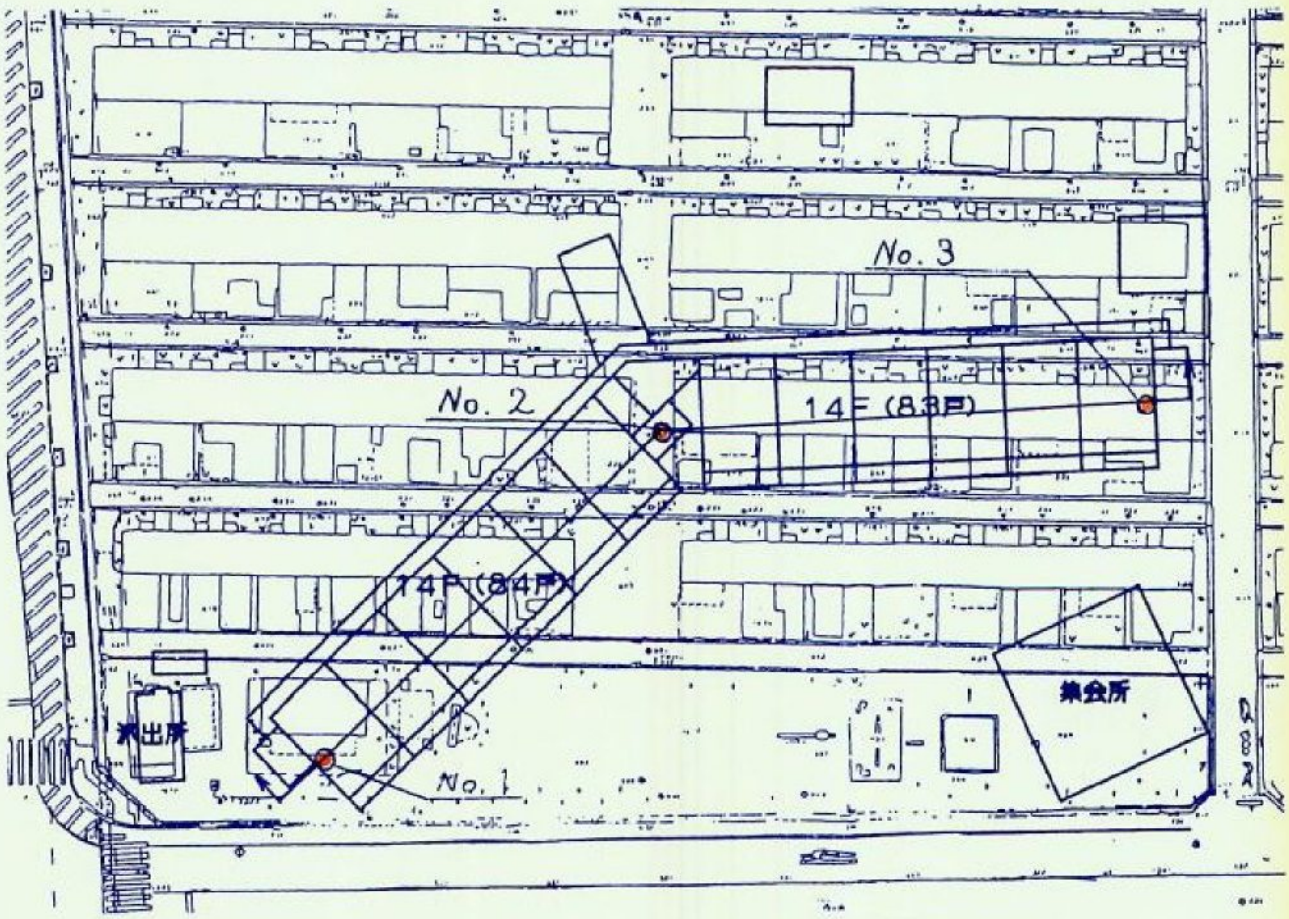
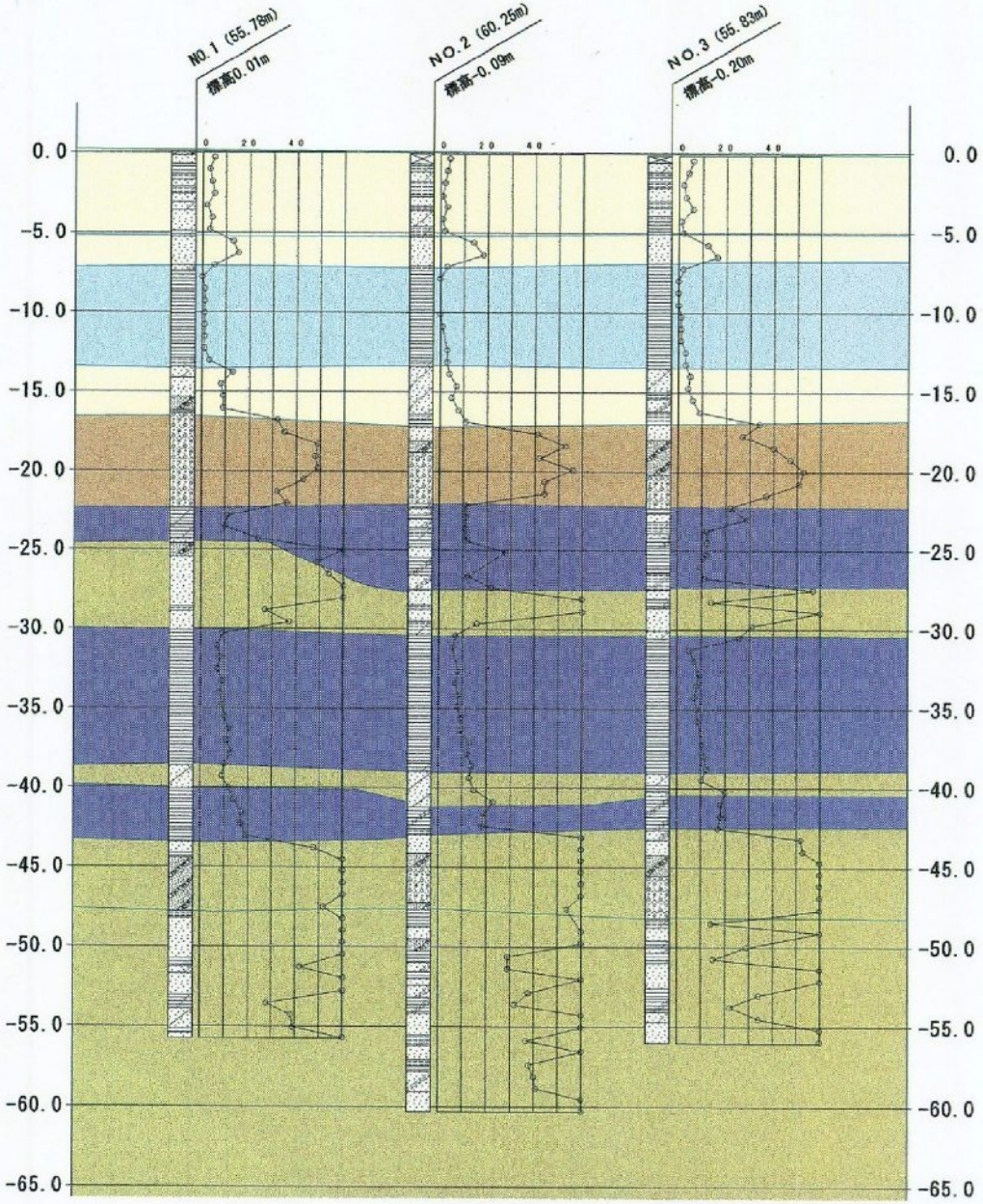
断面案内図



—彩色凡例—

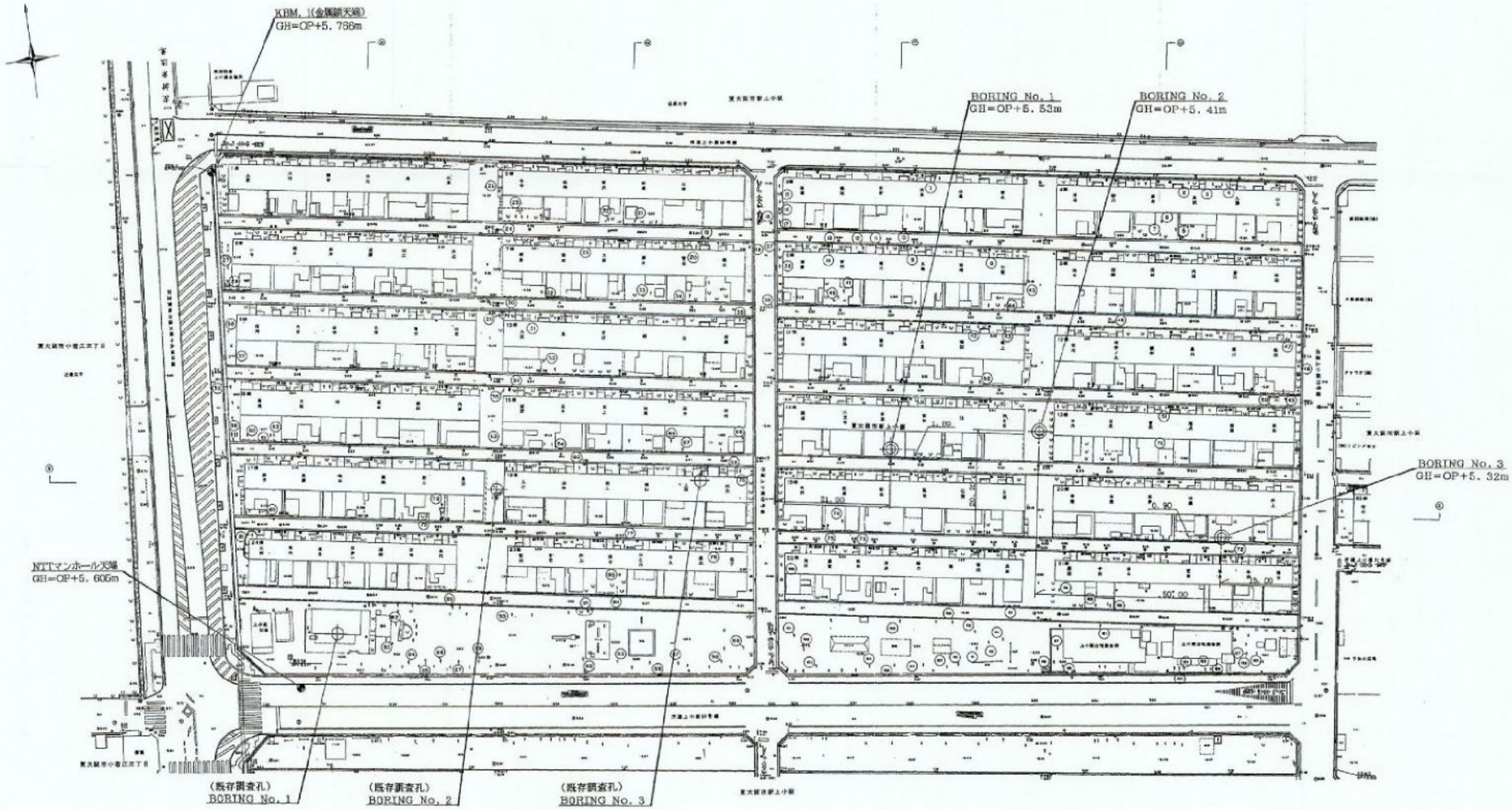
時代		地層	土質	記号（着色）
第四紀	完新世	沖積層	盛土・表土	Bn・R
			粘性土	Ac
			砂	As
			砂礫	Ag
	更新世	洪積層	粘性土	Dc
			砂	Ds
			砂礫	Dg

添付資料③近隣ボーリングデータ（第１期調査断面）



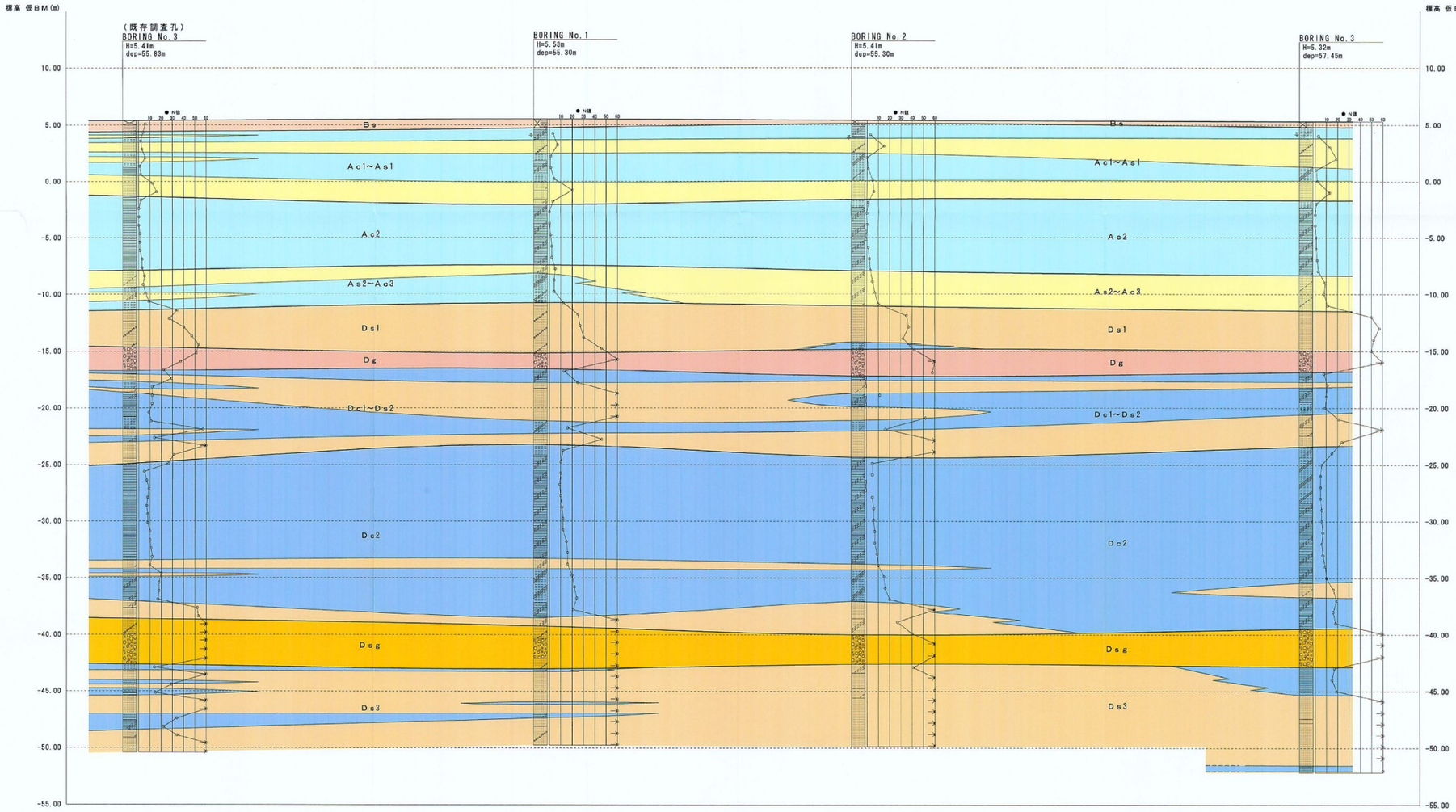
Asc	最上部に分布する砂層と粘土層。河川の氾濫堆積物。N値は全体でN＝1～6(N＝3)。砂質土は微砂が主体の土層が多い。粘土層は均質でなくシルトか微砂を混入する土層が多い。腐植物の混入も多く認められる。地下水位が浅くに認められる。
As1	河床の砂層でN＝12～18（N＝14）。中、粗砂主体。
Ａｃ	沖積粘土層でN＝0～3．GL-12mまではN＝0～1と「非常に軟らかい層厚6．3m。貝殻片の混入が多く認められる。海成の土層。
As2	沖積最下部の地層。シルト質砂～砂層が主体。N＝5～9と「緩い」相対密度。
Dg1	N＝40～46の「密な」地層。層厚4.85～6m。砂礫を主体とする地層。「天満層」に相当する。礫は亜円礫でφmax30㎜程度。砂は中～粗砂が多い。
Dc1	粘性土主体の地層。砂混り、シルト質の土質も見られる。N＝11．挟在する砂層は微細砂主体の土層。
Ds1	砂層でN＞60を呈するが、層厚に差異が認められる。下部は細粒砂が多くN値は小さい
Ｄｃ	N＝9を示す均質な地層。層厚は8．1～8．55m。Ma12層に相当する。均質であるが下部になるに従いN値は全体に大きくN＞10を示す。
	粘土混り砂層で細砂が主体。N＝9～23を示す。
	シルトを混入する粘土層。N＝17～19．
Dg2	Ma12層直下に分布する礫、砂、粘土層。砂、砂礫層はN＞60を呈する「密な」地層。連続する砂礫層の層厚は5.6～7.3m。シルト質、シルト混りの粘性土はN＝14～41を示す。地層としてはMa12層とMa11層の間の地層。互層間の砂層のN値は何れもN＞60を呈する微細砂を主体とする地層が多い。

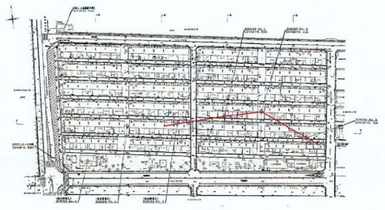
添付資料③近隣ボーリングデータ（第２期調査位置）



調査名 大阪府営東大阪新上小阪第2期住宅(建て替え)地質調査業務	
図名 調査位置図	SCALE 1/500
株式会社 地盤調査事務所	

添付資料③近隣ボーリングデータ（第２期調査断面）





土層断面切断図

地層分類凡例

地質時代		地層区分	地層記号	土質	
第四紀	現世	埋土層	Bs	砂質土主体	
	完新世	沖積層	Ac1	粘性土	互層
			As1	砂質土	
			Ac2	粘性土	
			As2	砂質土	
			Ac3	粘性土	
	更新世	洪積層	Ds1	砂質土	
			Dg	礫質土	
			Dc1	粘性土	互層
			Ds2	砂質土	
			Dc2	粘性土	
			Dsg	砂・礫質土	
			Ds3	砂質土	

調査名	大阪府堺市大阪南上小阪第2期住宅(建て替え)地質調査業務
図名	土層断面想定図
SCALE	SH=1:200 SV=1:200
株式会社 地盤調査事務所	